*英語翻訳-参照目的のみ*

*これは、日本国外の読者の便宜のためだけに作られた日本語原版の非公式翻訳である。日本語の原文とこの翻訳文の間に齟齬がある場合は、日本語の原文が優先する。*

会社計算規則第131条の規定により監査役等に報告した事項の通知

XX 2019年

有限責任あずさ監査法人

目次

[1.品質管理体制 1](#_Toc14425070)

[2.トップのトーン 3](#_Toc14425071)

[(1) 品質とリスクマネジメントに対するリーダーシップの責任 4](#_Toc14425072)

[3.適切なクライアントとの関連付け 5](#_Toc14425073)

[(1) 顧客および契約の受け入れと継続 5](#_Toc14425074)

[(2) 見込み顧客と契約の承認プロセス 5](#_Toc14425075)

[(3) 継続プロセス 6](#_Toc14425076)

[(4) 脱退 6](#_Toc14425077)

[(5) 顧客ポートフォリオ管理 6](#_Toc14425078)

[4.明確な基準と堅牢な監査ツール 7](#_Toc14425079)

[(1) 監査への取り組み 7](#_Toc14425080)

[(2) 独立性・誠実性・倫理性・客観性 9](#_Toc14425081)

[5.適任者の採用・育成・配置 13](#_Toc14425082)

[(1) 採用 14](#_Toc14425083)

[(2) 自己啓発 14](#_Toc14425084)

[(3) インクルーシブ・プログラムとダイバーシティ・プログラム 14](#_Toc14425085)

[(4) 品質および遵守指標を含む評価プロセス 15](#_Toc14425086)

[(5) パートナーの承認 15](#_Toc14425087)

[(6) 専門職の配置 15](#_Toc14425088)

[(7) Global People Survey (GPS) より 16](#_Toc14425089)

[6.優れた技術と質の高いサービス提供への取り組み 17](#_Toc14425090)

[(1) 生涯学習戦略 17](#_Toc14425091)

[(2) IFRSおよび米国会計基準の適用に関するライセンスおよび必須要件 17](#_Toc14425092)

[(3) 専門家ネットワークへのアクセス 18](#_Toc14425093)

[(4) 相談文化 18](#_Toc14425094)

[(5) ビジネス理解と業界知識の開発 19](#_Toc14425095)

[7.効果的かつ効率的な監査の実施 19](#_Toc14425096)

[(1) 継続的な指導、監督、レビュー 19](#_Toc14425097)

[(2) タイムリーな契約品質管理 (EQC) レビュー担当者 20](#_Toc14425098)

[(3) 報告 20](#_Toc14425099)

[(4) 洞察力とオープンで誠実な双方向コミュニケーション 21](#_Toc14425100)

[(5) 前監事と後任監事との間の連絡 21](#_Toc14425101)

[(6) クライアントの機密性、情報セキュリティ、およびデータプライバシー 21](#_Toc14425102)

[(7) リスク関連情報 21](#_Toc14425103)

[8.継続的改善への取り組み 22](#_Toc14425104)

[(1) 内部監査・コンプライアンスプログラム 22](#_Toc14425105)

[(2) 外部からのフィードバックと対話 24](#_Toc14425106)

# 

# 品質管理体制

**概要**

あずさ監査法人は、KPMGの国際的な方針および手続を実施するとともに、金融庁、日本政府、日本公認会計士協会 (JICPA) 、およびその他の規制当局、ならびに公認会計士法、会社法、金融商品取引法、その他の関係法令、日本公認会計士協会の監査に関連する監査基準および品質管理基準、ならびに日本公認会計士協会の監査に関する倫理・実務指針などの地方法が発行する規則および基準に対応するための追加的な方針および手続を採用しています。

堅牢で一貫した品質管理システムは、高品質なサービスを実行するために不可欠な要件です。したがって、KPMGインターナショナルは、すべての会員企業に適用される品質管理ポリシーを持っています。これらは、KPMGの全スタッフが利用できるKPMGのグローバル品質およびリスク管理マニュアル(グローバルQ&RMマニュアル)に含まれています。

これらの方針および手順は、メンバー企業が関連する専門的基準、規制および法的要件を遵守し、状況に応じて適切な報告書を発行することを支援するとともに、メンバー企業の従業員が誠実かつ客観的に行動し、勤勉に業務を遂行することを支援するように設計されている。これらの方針および手続は、国際監査・保証基準審議会が発行した品質管理に関する国際基準1 (ISQC 1) (IAASB) および国際会計士倫理基準審議会が発行した職業会計士倫理規程 (IESBA) に基づいている。これらはいずれも、法定監査やその他の保証業務および関連サービス業務を実施する会員企業に関連している。

あずさ監査法人は、KPMGの国際的な方針及び手続を実施するとともに、金融庁、日本公認会計士協会及びその他の関連規制当局が発行する規則及び基準並びに適用される法令及び規制要件に対応するための追加的な方針及び手続を採用します。倫理および独立性に関する方針を含むリスクおよび品質に関する方針の修正は、品質およびリスクマネジメントに関する警告に含まれ、電子メールで通知される。

KPMG AZSAは、電子メール・アラートで指定された変更を実装する必要があり、これは内部監視によってチェックされます。

品質管理とリスク管理は、すべてのあずさ監査法人の責任です。この責任には、日々の活動を実行する際に、企業のポリシーと関連する手順を理解し、遵守する必要性が含まれます。品質管理システムは、KPMGの全従業員に適用されます。

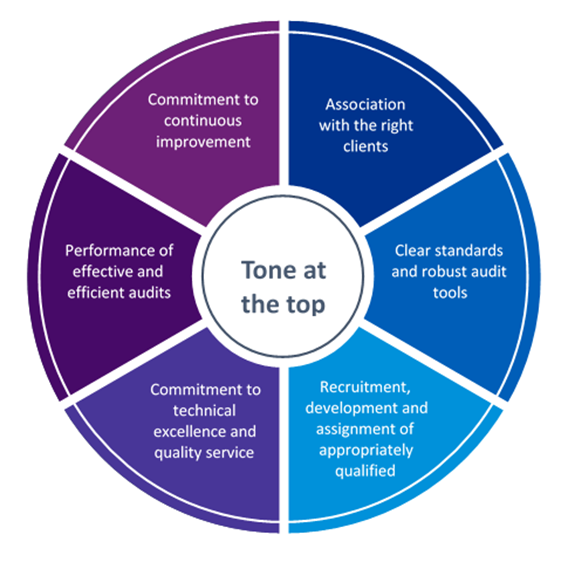
KPMGの品質管理プロセスの多くは部門横断的であり、助言業務にも同様に適用されるが、このセクションの残りの部分では品質監査の実施に焦点を当てる。

**監査品質フレームワーク**

あずさ監査法人では、監査の質は、正しい意見に到達することだけではなく、その意見がどのように到達するかにかかっている。監査人のレポートの背後にあるプロセス、思考、および整合性に関するものです。品質監査の結果は、関連する職業上の基準及び適用される法律上及び規制上の要件を遵守して、適切かつ独立した意見を提供することである。

すべての監査専門家が品質監査を実施するために必要な基本的なスキルと行動に集中できるように、KPMG Internationalは監査品質フレームワークを開発しました。このフレームワークでは、KPMG AZSAを含むKPMG加盟全企業で採用されている共通言語を使用して、KPMGネットワークが監査品質を推進すると考えるものを記述し、各KPMG加盟企業のすべての監査専門家が監査品質の提供にどのように貢献しているかを強調します。

Tone at the topは、Audit Quality Frameworkの監査品質の7つの推進要因の中核であり、正しい動作がKPMGネットワーク全体に確実に浸透するよう支援します。他のすべてのドライバは、それぞれが他のドライバを強化することを意図しているので、好循環を作り出します。7つのドライバの詳細については、このレポートの以降のセクションで説明します。



# トップのトーン

KPMGインターナショナルとKPMGメンバー企業の文化は、KPMGネットワーク全体に正しい態度と行動を浸透させることを可能にする、強固な価値観とサポートポリシーとプロセスによって支えられています。

当社のグローバル・リーダーシップは、地域およびメンバー企業のリーダーと協力して、品質へのコミットメントと最高水準のプロフェッショナル・エクセレンスを確立する上で重要な役割を果たしています。ステークホルダーや投資家が信頼する監査などのサービスを実施する組織にとって、品質、誠実さ、倫理に基づく文化は不可欠です。

KPMG AZSAでは、相談を奨励し、強みとして認識する文化を推進しています。

トップに立つということは、KPMG AZSAのリーダーシップが、品質、倫理、誠実さに対するコミットメントを示すとともに、そのコミットメントを顧客、ステークホルダー、社会全体に伝えることを意味します。誠実さは、ステークホルダーが期待し、信頼する重要な特性である。これは、KPMGのキー値でもあります「何よりも誠実に行動します」。誠実とは、常に最高の職業基準を守り、質の高い健全な助言を行い、独立性を厳格に維持することを意味します。

KPMGの価値は、長年にわたって明確に成文化されており、KPMG AZSAの実務慣行とコンプライアンス文化に組み込まれています。

KPMGの価値観は、私たちの文化の基盤を形成し、トップのトーンを設定します。また、KPMGのアプローチの基盤を形成し、監査を行い、連携する方法を形成します。KPMGの価値観を明確に社員に伝え、社員のプロセスに組み込んでいます。

**KPMGグローバル行動規範**

KPMGの誠実さと品質へのコミットメントは、私たちの行動の中心にあるKPMGの価値観にも表れています。それらは、KPMGの多様で包括的な文化と、適切な個人的および専門的行動へのコミットメントを定義します。KPMGの価値観は、何よりも、KPMGの従業員が誠実に行動し、最高の専門基準を遵守し、健全な助言を提供すると同時に、厳格に独立性を維持し、法令および専門基準を遵守することを強調しています。KPMGの価値はすべての人に明確に伝達され、メンバー企業の人事プロセス (導入、業績向上、報酬) に組み込まれます。

KPMGの価値観に基づくものが、KPMGグローバル行動規範です。

KPMG AZSAを含む加盟企業は、最低限、グローバル行動規範を採択する必要があります。

**あずさ監査法人行動規範**

「あずさ監査法人行動規範」 は、あずさ監査法人のすべてのパートナー及び従業員に期待される倫理的行動を規定し、あずさ監査法人の共通の信念及び原則である 「あずさ監査法人価値観」 を基礎として構築されています。KPMGのAZSA行動規範は、KPMGの人員に以下を義務付ける我々のコミットメントを規定しています。

* 適用されるすべての法律、規制、職業上の基準、およびKPMG AZSAポリシーを遵守する;
* 適切な顧客や第三者と協力する;
* 品質に焦点を合わせる;
* あずさ監査法人の内部、取引先、または当社が取引する公務員による違法または非倫理的な行為を容認しない;
* 情報を保護する;
* 公正に競争する;
* 私たちの人々が並外れた存在になるのを助ける;
* 責任ある企業市民;
* 国民の信頼を築く。

KPMG AZSAの全職員は、以下のことを行う必要があります。

* 「グローバル行動規範」 および 「KPMG AZSA行動規範」 の双方を遵守し、入社時および入社後は毎年 「行動規範」 の遵守を確認する;
* 入社時および入社後は毎年、 「行動規範」 に関する定期的な研修を実施しています。

個人は、自分を不快にさせるものやKPMGの価値観と矛盾するものを見たら、声を上げるように奨励される。さらに、KPMGのすべての人は、違法またはKPMGの価値、KPMGのポリシー、適用される法律、規制、または職業上の基準に違反する可能性のある活動を報告する責任があり、報告することが求められています。

倫理・品質問題を社員が報告できるよう、手順を定め、連絡ルートを確立しています。「手を挙げて」 誠意を持って発言する個人に対しては報復が禁止されている。また、KPMGの社内外から掲示された不正リスク(すなわち、不正による重大な虚偽表示のリスク)に関する情報を含むすべての情報は、関連する業務提携先と連絡が取られ、その監査対応が本社に報告されます。

また、KPMGインターナショナルホットラインは、KPMGのすべてのパートナー、従業員、顧客、およびその他の外部関係者が、KPMGインターナショナル自身、KPMG会員企業、またはKPMG会員企業の上級幹部や従業員の特定の活動分野に関する懸念を秘密裏に報告するためのメカニズムです。KPMG AZSAでは、グローバル・ピープル・サーベイ (GPS) (5. (7) 参照)を通じて、KPMGの価値観がどの程度生きていると社員が感じているかを定期的にモニタリングしています。

## 品質とリスクマネジメントに対するリーダーシップの責任

KPMG AZSAは、品質、倫理、誠実性へのコミットメントを示すとともに、品質重視の姿勢をお客様、ステークホルダー、社会に伝えています。私たちのリーダーシップは、プロとしての卓越性の最高水準への揺るぎないコミットメントを示し、主要なイニシアチブを支持し、支援することによって、適切なトーンを設定し、先導する上で重要な役割を果たします。

当社のリーダーシップ・チームは、書面およびビデオによるコミュニケーション、チームへのプレゼンテーション、1対1のディスカッションなどの活動を通じて、品質、誠実さ、倫理性に基づく文化の構築に取り組んでいます。

KPMG AZSAでは、以下の担当者が品質管理およびリスク管理の責任を負っています。

**管理パートナー**

当社のマネージング・パートナーは、ISQC 1の原則に従い、不正リスクに対する監査対応を含む、KPMG AZSAの品質管理システムに対する最終的な責任を負っています。

**品質担当役員**

KPMG AZSAにおける品質管理、リスク管理、およびコンプライアンスのシステムに関する運用上の責任は、品質担当執行役員に委任されています。品質担当執行役員は、総合的な専門的リスク管理および品質管理方針の設定、ならびに企業のコンプライアンスのモニタリングを担当します。

マネージング・パートナーと品質担当役員は、内部会議やニュースレターを通じて、品質管理システムに関する当社の内部方針、監査品質を優先する行動とメッセージを専門家に伝えます。

エンゲージメントパートナーは、関与する各エンゲージメントの品質とリスク管理に責任を持ちます。

# 適切なクライアントとの関連付け

## 顧客および契約の受け入れと継続

監査の質を管理するための鍵の1つは、クライアントの性質と直面する問題を理解し、特定されたリスクに対する強固な監査対応を構築することである。

顧客は仕事の質や評判に関係していると理解しています。

厳格なクライアントと契約の承認と継続のポリシーとプロセスは、KPMGの評判を保護し、KPMGブランドをサポートし、高品質のプロフェッショナルサービスを提供する当社の能力の重要な部分です。したがって、KPMGインターナショナルは、顧客との関係を受け入れるか継続するか、およびその顧客のために特定の契約を履行するかどうかを決定するために、すべての会員企業が実施する必要があるポリシーと手順を確立しています。

## 見込み顧客と契約の承認プロセス

KPMG AZSAは、すべての見込み顧客の評価を行います。

これには、見込みのあるクライアント、そのキー管理者、および重要な有益な所有者のバックグラウンドチェックが含まれており、情報を適切に分析して、十分な情報を得た上で受け入れ決定を下すことができます。この評価には、クライアントのリスク・プロファイルを評価するためのアンケートの記入と、クライアント、その主要な経営陣、取締役、所有者に関する背景情報の取得が含まれます。また、地域の法律や規制の要件を満たすために必要な追加情報も入手します。

第2のパートナーは、評価パートナーと同様に、各クライアント候補の評価を承認します。クライアントが 「ハイリスク」 と見なされる場合は、リスク管理パートナー、場合によってはオフィスのマネージングパートナー、または品質担当の理事会メンバーによる追加承認が必要です。

**契約評価**

また、各契約の見込みについても評価し、契約に関連する潜在的なリスクを特定します。この評価では、潜在的な独立性と利益相反の問題(SentinelTM、KPMGのコンフリクトと独立性チェックシステムの使用)、契約成果物の目的と使用、契約の種類に固有の要因など、さまざまな要因が考慮されます。監査サービスについては、クライアントの財務管理チームの能力、スタッフに割り当てられたスタッフのスキルと経験、不正リスクなどが含まれます。評価は、他のKPMG AZSAの上級職員と協議して行われ、必要に応じて品質及びリスクマネジメントのリーダーシップによるレビューを含む。

監査サービスが初めて提供される場合、見込みのあるエンゲージメントチームは、クライアントに提供される非監査サービス、およびその他の関連するビジネス上および個人的な関係のレビューを含む、追加の独立性評価手順を実行する必要があります。

同様の独立性評価は、既存の監査クライアントが公益事業体となった場合、又はクライアントの状況の変化に伴い追加的な独立性制限が適用された場合に実施される。我々は、特定の手続(詳細はセクション4. (2) 7)に従い、公益事業体である潜在的な監査依頼者の独立性に対する脅威を特定し、評価する。

潜在顧客の全体的なリスク評価と契約に応じて、特定されたリスクを軽減するための追加的な予防措置が導入されることがある。潜在的な独立性または利益相反の問題は、承認前に文書化して解決する必要があります。

潜在的な独立性や紛争の問題が、専門家の基準や当社の方針に従って満足のいく形で解決できない場合、または適切に緩和できないその他の品質やリスクの問題がある場合、潜在的な顧客や契約は拒否されます。

## 継続プロセス

あずさ監査法人は、すべての監査クライアントの年次再評価を行います。再評価では、継続的な関連付けと、実施する必要がある軽減手順に関連する問題を特定します。

反復的または長期的な非監査契約も再評価の対象となる。さらに、リスクプロファイルに変更の可能性が示唆される場合には、顧客および契約を再評価する必要がある。

## 脱退

契約または顧客との関係から撤退すべきであることを示す情報を入手した場合、社内で協議し、必要な法的、専門的、および規制上の責任を特定します。また、必要に応じて、ガバナンスや適切な権限を持つ担当者とのコミュニケーションを図っています。

## 顧客ポートフォリオ管理

弊社のリーダーシップは、各業務の役割を果たすための適切な能力、時間、権限を持つエンゲージメントパートナーを指名します。

我々は、少なくとも年1回、監査パートナーとの個別の議論において、各監査パートナーの顧客ポートフォリオをレビューする。レビューでは、各クライアントの品質監査を実施するパートナーの能力、能力、能力とともに、クライアントポートフォリオ全体の業界、性質、リスクを考慮します。

# 明確な基準と堅牢な監査ツール

KPMG AZSAのすべての専門家は、KPMG InternationalおよびKPMG AZSAの方針および手続き (独立性に関する方針を含む) を遵守するものとします。これらの期待に応えるために、さまざまなツールとガイダンスが提供されています。

監査契約のために設定された方針と手続きは、会計、監査、倫理、および品質管理基準、ならびにその他の関連法令の関連要件を含んでいる。

## 監査への取り組み

KPMGは、ネットワークの監査機能の進化に多大な投資を行ってきており、KPMG Claraプラットフォームを通じて提供される新しいグローバル電子監査ワークフロー (KPMGのスマートなモジュラー監査プラットフォーム) を含め、今後数年にわたってそれを継続します。このワークフローは、データ、自動化、および視覚化を活用する高度な機能を組み込み、新しいテクノロジーとの継続的な統合が可能です。データ&アナリティクス (D&A) は、KPMGのメンバー企業が監査証拠を入手し、デジタル時代の顧客と交流する方法に不可欠です。

KPMGの高品質な監査プロセスには、引き続き以下が含まれます。

* 契約期間中のパートナーとマネージャのタイムリーな関与;
* 専門家の関与、研修および経験要件、関連業界の専門知識を含む適切な知識へのアクセス;
* 監査中に得られたすべての監査証拠の重要な評価、適切な専門的判断の行使;
* エンゲージメントチームの継続的な指導、監督、レビュー。

1. 一貫した監査手法とツール

KPMGの標準とツールを完全かつ最新の状態に保つために、多くのリソースが費やされています。グローバル・サービス・センター (GSC) が開発したKPMG監査手法は、国際監査基準 (ISA) の要件に基づいています。KPMGの監査方法はKPMG Audit Manual (KAM) に記載されており、監査の質を高めるとKPMG Internationalが考えるISAを超えた追加要件が含まれています。この方法論は、監査手続の実施において適切な専門家としての疑いを適用することを重視しており、独立性を含む関連する倫理的要件の遵守を要求している。監査手法、ガイダンス、ツールの強化は、標準、新たに注目される監査分野、監査の品質結果(社内外)に準拠するように定期的に行われる。主なトピックは、会計上の見積り、内部統制、収益認識、グループ監査、監査サンプリング、リスク評価などです。

KPMGメンバー企業は、追加の専門的要件、法律上の要件、または規制上の要件に準拠するために、地域の要件および/またはガイダンスをKAMに追加することができます。

KAMには、とりわけ重大な虚偽記載のリスクを特定し評価するための手順と、評価されたリスクに対応するための手順に関する事例とガイダンスが含まれている。

KPMGの監査方法論は、適切な場合には専門家の利用を奨励し、また、一定の基準が満たされた場合、又は監査チームが適切又は必要と考える場合には、中核監査業務チームに関連する専門家の関与を要求する。

KAMに規定された方針と手順は、監査に固有のものであり、KPMGの全メンバー企業、機能、職員に適用されるグローバルQ&RMマニュアルに規定された方針と手順を補足するものである。

KPMG監査ワークフローは、アクティビティベースのワークフローであるeAudITと電子監査ファイルによって実現されます。eAudITは、75,000名以上のプロフェッショナルが高品質で一貫性のある監査を実施できるようにする、KPMGの監査ドキュメント・ワークフローです。eAudITは、KPMGの監査手法、ガイダンス、業界知識、および実施した監査作業の実行と文書化に必要なツールを統合します。

eAudITは、監査される組織の性質に応じて、また、専門的基準及び適用される法律上及び規制上の要件に従って、関連する要件及びガイダンスを示すように 「拡張」 することができる。監査ガイダンス、専門的な基準、ドキュメントテンプレートに直接アクセスできます。

KPMGの監査方法論 (KAM) とワークフローツール (eAudIT) の改訂と強化のために多額の投資が行われており、KPMG Clara Workflowは2018年に試験的に導入され、2019年には全世界での初期導入、2020年からは完全導入が予定されています。

**KPMG Clara、KPMG Clara WorkflowおよびAudit Data&Analytics (D&A)**

KPMGインターナショナルは、監査の質の向上、監査の実施における一貫性の促進、メンバー企業と契約のグローバルな監視の強化のために多大な投資を行っています。

**クララ**

2017年、KPMG InternationalはKPMG Claraのグローバルな立ち上げを開始しました。KPMGのSmart Audit Platformは、KPMGのAudit Data&Analytics (D&A) 機能、革新的な新技術、コラボレーション機能、および監査ワークフローを統合したものです。

これは、KPMGの次のような目標を表しています。

* 最新のテクノロジ対応の新しいインターフェイスとコラボレーション機能を使用して、従業員とクライアントの監査実行を変換;
* 監査をデジタル化して新しいD&Aルーチンを提供するために必要な機能を統合する;
* 強化され再設計されたワークフローを有効にする;
* エンゲージメントレベルおよびエンゲージメントポートフォリオ全体にわたるモニタリング能力の開発を組み込み、エンゲージメントチームやメンバー企業が利用できるようにする;
* グローバル・リーダーシップによるメンバー企業の品質管理システムの有効性の監視を支援する;
* 拡張可能な監査プラットフォームを開発し、メンバー企業のカスタマイズと拡張、および将来の機能を可能にする。

**KPMG Claraワークフロー**

2017年のKPMG Claraのローンチに基づき、KPMG Internationalは、KPMG監査チームがKPMG監査を実行し、文書化するために使用する新しいワークフローツールを作成しています。直感的で使いやすく、モダンなデザインになります。この新しいシステムは、監査チームを論理的な順序で一連のステップに導くワークフローであり、必要なときに必要な情報とビジュアル、知識とガイダンスをより明確に表示し、高度なD&A機能を組み込みます。ワークフローと方法論も拡張可能であり、監査業務の規模と複雑さに合わせて要件を調整できます。このグローバルに推進されるプロジェクトは、KPMGの専門家による監査の実施を大幅に見直し、再設計し、監査の質の向上を推進します。

**監査データと分析 (D&A)**

**D&AによるKPMGの監査:**

* データの母集団をより深く理解し、リスクの高いトランザクションに焦点を当てることで、監査の質を向上させます。
* 移動中のデータとKPMGのIT環境内のデータの両方へのアクセスを制限するため、安全です。
* これは、異常値と異常値の背後にある原因と根本原因を明らかにするための詳細な分析を容易にすることで透明性を提供し、リスクの高いトランザクションとプロセス領域の可視性を高める。

D&Aツールとルーチンは、監査の基礎となる原則と専門的基準に基づいて構築されており、監査人の責任を免除するものではない。

## 独立性・誠実性・倫理性・客観性

1. 概要

監査人の独立性は、国際的な職業基準および規制要件の基礎である。

KPMGインターナショナルは、IESBA倫理規定の要件を取り入れた、詳細な独立方針と手続を持っています。これらはKPMGのグローバルQ&RMマニュアルに記載されています。自動化されたツールにより、これらの要件へのコンプライアンスが容易になります。

これらの方針は、公認会計士法及び日本公認会計士協会が発行する倫理規則が発行する基準を遵守することを確保するための他のプロセスによって補足される。

これらの方針とプロセスは、企業の独立性、個人の独立性、企業の財務関係、雇用後の関係、パートナーのローテーション、監査および非監査サービスの承認などの分野をカバーしています。

KPMGインターナショナルには、グローバル独立性グループのパートナー担当者がおり、専門家のコアチームの支援を受けて、KPMGのメンバー企業に強固で一貫性のある独立性ポリシーと手続きを確実に導入し、これらの要件を満たすためのツールを提供しています。

あずさ監査法人は、倫理独立性パートナー (EIP) を選任しており、その責任者は、倫理独立性に関する方針および手続の指示および執行について主要な責任を負います。

KPMGインターナショナルの倫理および独立方針の改訂は、定期的な品質およびリスクコミュニケーションに含まれます。

メンバー企業は、電子メールアラートに指定された変更を実施する必要があり、これは内部監視プログラムによってチェックされる。

あずさ監査法人は、当監査法人の内部規則に定める事項について、監査法人と協議することが求められる。また、事実や状況によっては、グローバル・インディペンデンス・グループとの協議が必要となる場合もあります。

1. 個人の経済的自立

KPMGの国際的な方針では、KPMGのメンバー企業とKPMGの専門家は、KPMGのメンバー企業の監査クライアント、その経営陣、取締役、および重要な所有者に対する禁止された金銭的利益、および禁止された関係から自由であることが要求されています。また、本方針は、監査クライアント証券の所有に関するIESBA倫理規定の制限を、メンバー企業のいかなる監査クライアントについても、当社のすべてのパートナーおよびマネージャー等級以上のすべてのスタッフに拡大します。

KPMG AZSAの専門家は、独立性のために制限されている個人的な金銭的、事業的、または家族的利益がないことを確保するために、適切な調査を行い、その他の適切な措置を継続的に講じる責任があります。

KPMGの他の会員企業と同様に、ウェブベースの独立性コンプライアンスシステム (KICS) を使用して、プロフェッショナルが個人の独立性投資ポリシーを遵守できるよう支援しています。このシステムには、公開されている投資の目録が含まれています。

パートナーおよびマネージャー級以上の顧客対応スタッフは、投資を行う前にKICSシステムを使用して、その使用が許可されているかどうかを確認する必要があります。また、KICSへのすべての投資の記録を保持する必要があります。この記録は、その後投資が制限された場合に自動的に通知されます。新たに制限された投資は、通知後5営業日以内に処分しなければならない。

KPMGは、専門家のサンプルを対象とした独立性コンプライアンス監査プログラムの一環として、パートナーおよびマネージャーがこの要件を遵守しているかどうかを監視します。

1. 雇用関係

監査クライアントにサービスを提供する専門家は、その監査クライアントと雇用交渉を開始しようとする場合は、職務に関係なく、EIP、監査クライアントの契約パートナー、および人事部門に通知する必要があります。

監査チームの元メンバーまたはKPMG AZSAの元パートナーは、固定および決定されていない支払い、および/またはKPMG AZSAにとって重要であると思われる支払いを含む、KPMG AZSAとのすべての重要な関係を絶ち、KPMG AZSAの事業活動および専門的活動に参加しなくなった場合を除き、特定の役割において監査クライアントに参加することを禁じられています。

主要な監査パートナーおよび公益団体である監査クライアントの指揮命令系統のメンバーは、時間制限(クーリングオフ期間という)の対象となるため、一定の期間が経過するまで特定のロールでそのクライアントに参加できません。

監査クライアントによるKPMG AZSAプロフェッショナルの雇用に関する要求事項を伝達し、監視します。

1. 企業の財務的自立

また、KPMG会員企業は、監査クライアント、その経営陣、取締役、および重要な所有者に対する禁止された利害および禁止された関係から自由でなければなりません。

他のKPMG会員企業と同様に、KPMG AZSAはKICSを使用して、Webベースの独立性追跡システムにKPMG自身の投資(年金・退職金制度や財務活動などを通じて行われる)を記録します。この記録は、コンプライアンス・プロセスを通じて監視されます。

1. 取引先

あずさ監査法人は、IESBA倫理規則、日本公認会計士法、JICPAおよびSECが発行する倫理規則、米国PCAOB規則の要件に従って、取引関係が維持されるように設計された方針と手順を定めています。

1. 独立クリアランスプロセス

KPMG AZSAは、公益事業体である見込み監査クライアントに関連する独立性に対する脅威を特定し、評価するための具体的な手順に従っています。「独立性の承認プロセス」 とも呼ばれるこれらの手続きは、これらの機関の監査契約を受け入れる前に完了しなければならない。

1. 自立訓練と確認

すべてのKPMG AZSAパートナーおよび顧客サービスの専門家は、他の特定の個人と同様に、KPMG AZSAに加入した後は毎年、その等級と機能に適した独立性トレーニングを完了しなければなりません。このトレーニングを完了する必要がある新しい担当者は、 (a) KPMG AZSAに参加してから30日以内、または (b) 監査クライアント (その関連団体または関連会社を含む) にサービスを提供したり、その指揮命令系統のメンバーになったりする前に、このトレーニングを完了しなければなりません。

また、KPMGの贈収賄防止方針、法律、規則、職業上の基準の遵守、および法律、規則、職業上の基準、KPMGの方針の違反の疑いまたは実際の報告を含む、グローバル行動規範、KPMG AZSA行動規範、および倫理的行動に関する研修を隔年で全従業員に提供します。新入社員は、KPMG AZSAに入社してから3ヶ月以内にこのトレーニングを完了する必要があります。

採用時には、KPMGの全職員は、適用される倫理および独立性の規則および方針を遵守していること、および遵守することを確認する必要があります。

その後、KPMGの全従業員は、確認の対象となる年を通して適用される倫理および独立の方針を遵守し、適用される行動規範を理解し、遵守していることを示す年次確認書に署名する必要があります。この確認は、KPMGの独立性ポリシーに対する個人のコンプライアンスと理解を証明するために使用されます。

1. パートナー・ローテーション

公認会計士法およびJICPA倫理規範に準拠したローテーション・ポリシーにより、より厳格なローカル・ローテーション要件を遵守することが求められています。

KPMG AZSAパートナーは、適用される法律、規制、独立規則、およびKPMG国際方針に基づき、監査クライアントに対する責任を定期的に交代させられます。

これらの要件では、特定の役割のパートナーがクライアントに監査サービスを提供できる年数に制限が設けられており、その後、 「タイムアウト」 期間が設けられます。この期間中、これらのパートナーは監査に参加できず、監査の品質管理を提供し、技術的または業界固有の問題について、または監査の結果に何らかの影響を与えることがありますが、エンゲージメントチームまたはクライアントと協議します。

KPMG AZSAは、監査エンゲージメントリーダー(キー監査パートナーやEQCレビュー担当者など、ローテーション要件があるその他の主要な役割)のローテーションを監視し、クライアントに一貫したサービス品質を提供するために必要な能力と能力をパートナーに割り当てることを可能にする移行計画を策定します。パートナーのローテーション・モニタリングは、コンプライアンス・テストの対象となります。

1. 非監査サービス

私たちは、監査クライアントに提供できるサービスの範囲に関連して、IESBAの原則および適用される法律と規制に合致したポリシーを持っています。

KPMG AZSAが開発したすべての新規および変更サービスをレビューおよび承認するプロセスを確立し、維持する必要があります。KPMG AZSAのEIPは潜在的な独立性の問題のレビューに関与し、Global Independence Groupは複数の管轄区域の監査または保証のクライアントに提供されることを意図して開発されたサービスの場合に関与します。

SentinelTMは、潜在的な利益相反を特定するだけでなく、これらのポリシーの遵守を促進します。

サービスの説明や料金など、契約予定のすべての情報は、契約承認プロセスの一部としてSentinelTMに入力する必要があります。リード監査契約パートナーは、SentinelTMの上場企業、その他の特定の監査クライアント、およびその関連会社のグループ構造を維持する必要があります。また、提案された非監査サービスの提供によって発生する可能性のある独立性の脅威、およびそれらの脅威に対処するために利用可能な保護措置を特定し、評価する責任も負います。SentinelTMは、グループ構造が維持されているエンティティのリード監査契約パートナーが、世界中のこれらのエンティティに提案されているすべてのサービスをレビュー、承認、または拒否できるようにします。

1. 料金依存

KPMGインターナショナルの方針は、監査意見を表明する会員企業の総報酬のうち、監査クライアントからの総報酬が大きな割合を占める場合には、自己利益または脅迫の脅威が生じる可能性があることを認識しています。

公益事業体の監査依頼者及びその関連事業体からの報酬の合計が、特定の会員企業が受け取った報酬の合計の10%以上を二年間連続して占めることを求めている。

* これは、監査法人のガバナンス担当者に開示される。および
* 別のKPMGメンバー企業のEQCレビュー担当者が指名されます。

過去二年間にあずさ監査法人が受領した報酬総額の10%以上を占める監査依頼者はありません。

1. 利益相反の回避

利害の衝突は、KPMG AZSAの担当者が顧客と個人的に関係しており、客観的であり続ける能力に干渉しているか、または干渉していると認識されている場合、または取引の他の当事者に関する機密情報を個人的に保有している場合に発生する可能性があります。このような状況では、RMPまたはEIPとの協議が必要である。

すべてのKPMGメンバー企業及び要員は、利害の対立を特定し、管理する責任を負う。利害の対立とは、十分な情報に通じた合理的な観察者によって、客観的であるか、あるいは偏見なしに行動する能力において、メンバー企業又はその要員に影響を及ぼす状況又は状況であると認識され、又は認識される可能性のある状況又は状況である。

すべてのKPMGメンバー企業は、法的および専門的要件に従って対処できるように、潜在的な競合の特定にSentinelTMを使用する必要があります。KPMG AZSAは、特定された潜在的なコンフリクトをレビューし、その結果を文書化しなければならないコンフリクトの解決のために影響を受けるメンバー企業と協働する責任を有するリスク管理リソース (リゾルバ) を有しています。

全ての顧客の業務の秘密性が維持されるように、利益相反が生じる可能性又は生じると認識される可能性を管理するために、特定の手続を適用することが必要な場合がある。このような手順には、例えば、異なる顧客にサービスを提供する契約チーム間に正式な分割を確立すること、およびこのような分割の運用を監視するための取り決めを作成することが含まれる。

紛争の管理方法について合意に達することができない場合には、エスカレーションと紛争解決の手続きが用意されている。

潜在的な競合の問題を適切に軽減できない場合、契約は拒否または終了されます。

1. 独立政策の違反

KPMGの全職員は、独立性違反を認識した場合、直ちにEIPに報告することが義務付けられており、当社の独立性方針が遵守されなかった場合、それがコンプライアンス審査で特定されたものであるか、自己申告によるものであるか否かにかかわらず、専門家は独立性懲戒方針の対象となります。

あずさ監査法人は、独立性に関する方針の違反に関する懲戒方針を文書化しています。懲戒方針は、すべての専門家に伝達され、独立性規則のすべての違反に適用され、違反の重大性を反映した段階的な制裁を含む。

監査人の独立性に関する規則の違反は、監査人と合意した基準に基づいて、少なくとも年1回、監査クライアントのガバナンス担当者に報告される。

1. 法令の遵守、贈収賄および汚職防止

法律、規制、基準の遵守は、すべてのKPMG AZSA社員にとって重要な要素です。特に、私たちは賄賂と腐敗に対する許容度がない。

当社は、いかなる種類の贈収賄にも関与することを禁止します。そのような行為は、適用される法律または地域の慣行に基づいて合法または許可されている場合でも同様です。また、クライアント、サプライヤー、公務員を含む第三者による贈収賄も許容しません。

KPMG Internationalの贈収賄および汚職防止政策の詳細については、贈収賄および汚職防止サイトを参照してください。

1. インサイダー取引防止

あずさ監査法人は、インサイダー取引を防止するため、資本市場における情報の信頼性の確立を目的とした社内規則・手続を定めています。これには、被監査法人の有価証券の保有または取引の禁止、日本およびその他の国の上場企業の個人投資を監視するためのウェブベースの独立性追跡システムへの登録が含まれる。

すべてのパートナーおよび従業員は、適切な研修を通じてインサイダー取引の方針を理解し、その期間を通じて適用される方針を遵守していることを毎年確認します。

# 適任者の採用・育成・配置

品質の重要な推進要因の1つは、監査において最高の品質を提供するために、専門家が適切なスキルと経験、情熱、目的を持つことを保証することです。そのためには、専門家を適切に採用、育成、昇進させ、定着させることが必要である。KPMGのパフォーマンス開発アプローチは、KPMGの価値観にリンクされており、成功に必要なものを、個別にも集合的にも明確にするように設計されています。監査品質の確保は、KPMG Clara Workflowロールアウトおよび関連する更新されたKPMG監査方法論をサポートするために進行中のトレーニング、計画、および開発の重要な要素であり、プロセスはすべてのKPMG学習プログラムに組み込まれています。

## 採用

KPMG AZSAは、従業員が自らの能力を発揮し、誇りを持って最善を尽くすことができる環境を作ることで、選ばれる雇用主になることを目指しています。

応募者全員が応募書類を提出し、応募者選考、能力ベースの面接、精神測定、能力テストなど、さまざまな選考プロセスを経て採用されます。

あずさ監査法人は、候補者の元事業主に関する機密情報を一切受け付けません。上級グレード(パートナー、ディレクター)に採用された個人については、EIPが正式な独立性の議論を行う。

パートナーの採用プロセスは厳格かつ徹底しており、パートナー・ミーティングやシニア・エグゼクティブ・ボードなどの適切なリーダーが関与します。パートナーの採用基準は、プロ意識と誠実さ、品質、そして選ばれる雇用主であることへのコミットメントと一致しています。

## 自己啓発

当社のすべての専門家が、質の高い業務を遂行するために必要な技術的スキルに加えて、ビジネスとリーダーシップのスキルを持っていることが重要です。

監査に関しては、専門家が監査のキャリアの基礎となるスキル、行動、個人的資質を開発する機会が提供される。個人の有効性を高め、技術的スキル、リーダーシップ、ビジネススキルを伸ばすためのコースが用意されています。

さらに、監査期間中、専門的な懐疑主義を高め、維持し、示すことの重要性を確認するために、また、メンバーに詐欺についての指導と訓練の適切な機会を提供するために、各パートナーと雇用主のために、トレーニングセッションが継続的に提供されます。

また、KPMG AZSAのプロフェッショナルは、仕事の指導や指導、ストレッチ課題、国別ローテーションやグローバルモビリティの機会にアクセスすることで、高いパフォーマンスを実現できるように開発されています。

## インクルーシブ・プログラムとダイバーシティ・プログラム

KPMG AZSAは、インクルーシブな文化の育成に努めています。インクルーシブ (包括的) であることで、最も幅広いスキル、経験、展望を持つ成功したチームをまとめることができます。

多様な個性を持つパートナーや従業員一人ひとりが、互いの違いを尊重し、最大限に活用しながら、「質の高いサービスの提供を通じて、お客さまや社会の監査に貢献」という共通の目標に向けて高い成果を上げることを奨励します。

KPMG AZSAでは、多様で柔軟な働き方ができる環境を整えるために、さまざまな取り組みを行っています。具体的には、グローバル人材の育成に取り組んでいます。女性の就労促進;仕事と出産・育児・介護の両立支援;障害者雇用の促進;多様性を尊重する企業風土の醸成;テレワークの導入や、オフィスワークのスタイル全般の変革などです。

KPMGのインクルージョン&ダイバーシティの詳細については、[こちら](https://home.kpmg/xx/en/home/insights/2018/11/inclusion-and-diversity-at-kpmg.html)をご覧ください。

## 品質および遵守指標を含む評価プロセス

パートナーを含むKPMG AZSAの専門家は、年間目標設定と実績評価を行っています。各プロフェッショナルは、合意された目標、リーダーシップ能力、技術的能力、および市場知識の証明に基づいて評価されます。継続的改善の文化は、同僚だけでなく、後輩や先輩からも、フォーマルでもインフォーマルでもフィードバックを促すことが奨励される。収集されたフィードバックは、パフォーマンスレビューに不可欠な要素です。

KPMG AZSAは、品質およびコンプライアンスのインシデントを監視し、パートナー、取締役、およびマネージャの総合的な評価、昇進、報酬を評価するための品質指標を維持します。

パートナーは、主要な品質とコンプライアンスの測定基準でも評価されます。

これらの評価は、パフォーマンスを評価し、パフォーマンス評価を提案する立場にあるパフォーマンス・マネージャおよびパートナーによって実施されます。KPMG AZSAのポリシーでは、監査パートナーが監査クライアントに保証外サービスを販売した成功に基づいて評価または報酬を受けることを禁止しています。

**報酬**

当社には、明確かつシンプルで、パートナーにとって主要な監査品質およびコンプライアンス指標の達成を含む、パフォーマンスレビュープロセスにリンクされた報酬および昇進ポリシーがあります。これにより、パートナーや従業員は、自分に何が期待されているのか、見返りとして何を期待できるのかを知ることができます。

報酬の決定は、個人と組織(会員会社)双方の業績を考慮して行われる。従業員が自分の業績を報酬にどの程度反映させているかは、GPSによって測定され、それに応じて行動計画が策定される。

**プロモーション**

業績評価の結果は、パートナーおよびスタッフの昇進と報酬に直接影響し、場合によっては、KPMGとの継続的な連携にも影響します。

## パートナーの承認

パートナーシップを承認するためのプロセスは厳格かつ徹底しており、パートナー・ミーティングやシニア・エグゼクティブ・ボードを含む適切なリーダーシップ・メンバーが関与しています。

KPMGのAZSAパートナーシップへの参加を承認するための当社の基準は、プロ意識と誠実さ、品質、そして選択された雇用主であるという当社のコミットメントと一致しています。これらはKPMGの行動能力と強く連携しており、一貫した原則に基づいています。

## 専門職の配置

KPMG AZSAは、エンゲージメントパートナーとその他の専門家の両方を、それぞれのスキル、関連する専門的経験および業界での経験、ならびに割り当てまたはエンゲージメントの性質に基づいて、特定のエンゲージメントに割り当てる手順を定めています。

ファンクションヘッドは、パートナーの割り当てプロセスを担当します。主な考慮事項には、年間パートナー・ポートフォリオ・レビューに基づくパートナーの経験と能力が含まれます。このレビューでは、契約の規模、複雑性、リスク・プロファイル、および提供されるサポートのタイプ(すなわち、エンゲージメントチームの構成と専門家の関与)を考慮して契約を実行します。

監査契約パートナーは、KAM、プロフェッショナル基準、適用される法律および規制要件に従って監査契約を実行するための適切な能力、トレーニング、および能力 (時間を含む) が契約チームにあることを確認する必要があります。これには、当社または他のKPMGメンバー企業の専門家が関与する場合があります。

エンゲージメントチーム全体に期待される適切な能力を検討する場合、エンゲージメントパートナーの考慮事項には以下が含まれる。

* 適切な研修と参加を通じて、監査業務と同様の性質と複雑さを持つ監査業務の理解と実務経験;
* 職業上の基準、法律上および規制上の要件の理解;
* 適切な技術的スキル (関連する情報技術及び会計又は監査の専門分野に関するものを含む。);
* 顧客が事業を行っている関連業界に関する知識;
* 専門的判断力;
* KPMG AZSAの品質管理方針および手順の理解;
* QPRの結果及び規制当局による検査の結果、並びに;
* 我が民族からの洞察 (GPS) 。

## 社員を対象とした-People調査 (GPS)

2年に一度、KPMGジャパンは、KPMGで働いた経験についての認識を共有するために、独立したGPSに参加するように私たちのすべての人々を招待します。

GPSは、従業員エンゲージメント指数 (EEI) を通じて従業員のエンゲージメントを総合的に測定し、エンゲージメントを促進する分野 (強みや機会) を洞察します。この調査では、こうした取り組みレベルを強化する機会も特定されています。結果は、追加的な洞察を提供するために、機能的または地理的領域、等級、役割、性別によって分析することができます。また、従業員のエンゲージメントに影響を与えることがわかっているカテゴリについて、私たちがどのように対処しているかについても説明します。

この調査では、KPMGのAZSAリーダーシップとKPMGのグローバル・リーダーシップに、監査の質に関する結果を具体的に提供しており、KPMGの価値観、品質、リーダーシップ、トーンに対する従業員とパートナーの姿勢を最上位に維持しています。

KPMG AZSAは、GPSに参加し、結果を監視し、調査結果を連絡し回答するための適切な措置を講じます。

これには、以下に関連するGPS結果の監視が含まれます。

* トップレベルでの監査の質とトーン;
* EEIを通じた従業員の雇用。

GPSの結果もKPMGネットワーク用に集計され、毎年グローバル・ボードに提示され、適切なフォローアップ措置が合意されます。

# 優れた技術と質の高いサービス提供への取り組み

KPMG AZSAのすべての専門家には、必要な技術トレーニングとサポートが提供されます。これには、監査、報告、およびリスク管理の経験が豊富な上級専門家で構成される専門家および専門業務部へのアクセスが含まれ、関与チームにリソースを提供するか、または相談に応じる。

KPMG AZSA内で適切なリソースが利用できない場合は、他のKPMGメンバー企業の高度に熟練したKPMG専門家のネットワークへのアクセスが提供されます。

同時に、監査ポリシーは、専門家に対し、割り当てられた業務について適切な知識と経験を有することを要求する。

## 生涯学習戦略

前述の個人の能力開発に加えて、当社の生涯学習戦略は、すべての専門家が技術的能力を維持し、適用される規制および専門能力開発要件を遵守することを要求する方針によって支えられています。

**正式訓練**

開発と提供のための年次トレーニングの優先順位は、グローバル、地域、およびKPMG AZSAレベルのAudit Learning and Development運営グループによって特定されます。トレーニングは、クラスルーム、デジタル学習、パフォーマンスサポートを組み合わせて実施され、監査員の業務を支援します。

監査ラーニング・アンド・デベロップメント・チームは、GSC、ISG、およびメンバー企業のDepartment of Professional Practice (DPP) の対象分野の専門家やリーダーと適宜連携して、トレーニングの質が最高であること、職務遂行に適していること、タイムリーに実施されることを確認します。

## IFRSおよび米国会計基準の適用に関するライセンスおよび必須要件

**ライセンス**

すべてのKPMG AZSAプロフェッショナルは、適用されるプロフェッショナルライセンス規則を遵守し、業務を行う法域における継続的専門能力開発 (CPD) 要件を満たす必要があります。

ポリシーと手順は、ライセンス要件への準拠を容易にするように設計されています。

私たちは、業務に従事する監査専門家が、適切な監査、会計、業界に関する知識、および現地の支配的な財務報告の枠組みにおける経験を有していることを保証する責任があります。

**必須要件-IFRSおよび米国会計基準への準拠**

IFRSが主要な財務報告の枠組みとなっていない国において、IFRSへの取り組みに携わるパートナー、マネージャー、EQCのレビュアーには、特定の要件があります。同様の方針は、米国会計基準に準拠して作成された財務諸表または財務情報を報告するために米国外で行われる契約、および/または米国監査基準に準拠して監査される契約 (企業の財務報告に対する内部統制 (ICOFR) の有効性に関する報告を含む) にも適用されます。

そのためには、パートナー、マネージャー、およびEQCのレビュー担当者が関連するトレーニングを完了していること、およびエンゲージメントチームが協力してエンゲージメントを実施するための十分な経験を持っているか、または不足を解消するための適切な予防措置を実施していることが必要です。

## 専門家ネットワークへのアクセス

KPMG AZSAエンゲージメントチームは、地元のKPMGスペシャリストおよび他のKPMGメンバー企業のスペシャリストのネットワークにアクセスできます。

監査チームのメンバーであり、監査業務に対する専門家の関与について全体的な責任を有する専門家は、その役割を適切に果たすための能力、能力及び客観性を有する。これらの専門家には、監査概念に関する研修が提供される。

特定の監査契約に専門家(例:Information Technology、Tax、Actuarial、Forensic、Valuation)を割り当てる必要性は、監査契約の承認および継続プロセスの一部として考慮される。

## 相談文化

KPMGは、意思決定プロセス全体を通してメンバー企業のチームをサポートする強力なコンサルティング文化を奨励し、監査品質の基本的な貢献者です。

あずさ監査法人は、相談することが強みであると認識し、困難な事柄や議論のある事柄について相談することを奨励する文化を推進しています。

監査業務の専門家が困難または議論を呼ぶ問題に対処するのを支援するために、業務上の問題に関する意見の相違の解決を促進するための手続を含め、重要な会計および監査上の問題に関する協議および文書化のための手順書が作成されている。

これらの手順には、不正行為による重大な虚偽表示を示唆する指標が特定された場合の協議のための方針及び手続が含まれる。

監査契約の専門家に対しては、当社の専門業務リソースを通じて適切なコンサルテーションサポートを提供しています。

技術的な監査及び会計サポートは、GSC及びISG、並びにSEC外国人登録者のためのUS Capital Markets Groupを通じて、すべての会員企業及びその専門家に利用可能である。

**グローバル・サービス・センター (GSC)**

GSCの使命は、コラボレーション、革新、およびテクノロジーを通じて、KPMGのグローバルな監査ネットワークを成功に導くことです。GSCは、KPMGの監査手法およびKPMGの監査専門家が使用する技術ベースのツールを開発、維持、導入し、効果的かつ効率的な監査を促進します。GSCの監査チームは、監査、IT、データサイエンス、数学、統計などの分野に精通した世界中の専門家で構成されており、KPMGの監査機能をさらに進化させるための多様な経験と革新的な考え方を提供します。

**国際規格グループ (ISG)**

ISGは、世界中から地理的に参加しているグローバルIFRSおよび国際証券化協会のトピックチームと協働して、IFRSの解釈と加盟企業間の監査要件の一貫性を促進し、新たな問題を特定し、タイムリーにグローバルなガイダンスを策定する。

GSCとISGおよびその活動の詳細については、KPMG国際透明性報告書を参照のこと。

**会員企業の専門的実務担当者**

監査及び技術的会計事項に関する適切な相談支援が、我々の専門的実務資源(専門業務部またはDPPと呼ばれる)を通じて監査契約専門家に提供される。DPPは、チーム内またはEQCレビュー担当者と意見の相違がある場合にも、エンゲージメントチームを支援します。未解決の相違点は、最終的な解決のためにシニアパートナーにエスカレーションする必要があります。ISGは、必要に応じて相談することもできます。

KPMGの国際ポリシーには、メンバー企業のDPPに関する最低要件が含まれています。

## ビジネス理解と業界知識の開発

品質の重要な部分は、お客様のビジネスと業界を詳細に理解することです。

重要な業界については、関連する業界情報の開発をサポートするために、グローバル監査セクターのリーダーが任命されます。この情報は、KPMG監査ワークフローを通じて監査専門家が利用できるようになっています。

この知識は、産業監査手続の例及びその他の情報(典型的なリスクや会計プロセスなど)から構成される。さらに、KPMGの監査ワークフローで提供される業界の知識の概要だけでなく、特定の業界に関する一般情報やビジネス情報を提供する業界の概要も利用できます。

# 効果的かつ効率的な監査の実施

監査がどのように行われるかは、最終結果と同様に重要である。KPMGのAZSA要員は、効果的かつ効率的な監査の実施において、特定の重要な行動を示し、特定の方針および手順に従うことが求められています。

## 継続的な指導、監督、レビュー

私たちは、スキルが時間をかけて、異なる経験に触れることによって発達することを理解しています。KPMG AZSAは、KPMGの専門家のスキルと能力の開発に投資するために、品質を妥協することなく、継続的な学習環境を促進し、コーチング文化をサポートします。

エンゲージメントパートナーは、エンゲージメントマネージャのサポートを受けて、監査プロセス全体を通じてコーチングと継続的学習の文化を推進し、継続的な監査品質改善の文化を推進するために、監査の実施において模範を示す責任があります。

また、不正リスクに適切に対応するため、監査の全期間を通じて監督とレビューに関する方針と手続きを定めています。

監査中の継続的な指導、指導、監督には以下が含まれる:

* 計画的な議論への関与パートナーの参加;
* 監査業務の進捗状況の追跡;
* 業務を遂行するための十分な時間があるかどうか、指示を理解しているかどうか、業務が業務への計画されたアプローチに従って実施されているかどうかなど、業務チームの個々のメンバーの能力と能力を考慮する;
* 監査中に発生した重要な問題への取り組みをエンゲージメントチームのメンバーが支援し、計画されたアプローチを適切に修正する;
* 契約期間中に経験豊富なチームメンバーとの協議事項を特定する。

効果的なメンタリングと監督の重要な部分は、重要な問題が迅速に特定され、議論され、対処されるように、実施された作業を適時に見直すことである。

あずさ監査法人は、不正リスクに対する監査の対応を監督し、審査するための方針及び手続を有する。

## タイムリーな契約品質管理 (EQC) レビュー担当者

EQCレビュアーは、エンゲージメントチームから独立しており、エンゲージメントチームが行ったより重要な決定や判断、および財務諸表の適切性について客観的なレビューを行うための適切な経験と知識を有しています。

EQCレビュー担当者は、すべての上場企業、知名度の高い非上場企業、適用法令に基づくEQCレビューを必要とする契約、およびリスク管理パートナーまたは監査責任者が指定するその他の契約の中間財務情報の関連レビューを含む、監査のために任命される必要があります。

EQCレビューは、審査員の報告日前に行われ、特に以下の事項を含む。

* 契約チームが下した重要な判断とそれが到達した結論に関連する選定された監査文書のレビュー;
* 財務諸表及び監査報告書案の検討;
* 監査人の報告書の作成に当たって得られた結論の評価及び報告書案の妥当性の検討。

エンゲージメントパートナーは最終的には財務報告および監査問題の解決に責任を負いますが、EQCのレビュー担当者は、提起された重要な問題がすべて解決済みであることを確認してから、監査が完了したと見なすことができます。

不正行為による重大な虚偽表示の可能性が確認された場合、EQC審査員は、リスク評価、実施された監査手順、および監査チームによって得られた監査証拠の妥当性を評価する必要がある。

KPMG AZSAは、監査品質管理システムの基本的な部分であるEQC審査員の監査における役割の強化と改善を継続的に追求しています。これを強化するために、次のような多くの措置が取られた。

* 監査業務に関するEQCレビューのための基本方針の策定;
* 効果的なレビューを促進するためのEQCレビューに関するガイダンスの発行;
* 監査リスクについての理解を得ること、EQCレビューに関する問題についてEQCレビュー担当者に問い合わせること、およびEQCレビューの現状を監視すること。

シニアレビュー委員会は、客観的レビューを実施するための適切な経験と知識を有するパートナーで構成され、EQCレビュープロセスの状況を監視し、監査で下された重要な判断を評価する。

## 報告

当監査法人の監査報告書は、我が国の監査の基準及び関係法令に準拠して、顧客の計算書類をすべての重要な点において適正に表示しているかについての意見をその内容としている。経験豊富な業務執行社員が、実施した監査に基づいてすべての監査意見を形成する。

監査人の報告書を作成する際、エンゲージメントパートナーは、DPPとの協議を通じて、広範な報告ガイダンスや技術サポートにアクセスすることができる。エンゲージメントパートナーは、監査人の報告書の利用者に報告すべき重要な事項がある場合には、監査報告書の資格として、あるいは重点事項のパラグラフを含めることにより、上級審査委員会の関与を要請しなければならない。

## 洞察力とオープンで誠実な双方向コミュニケーション

ガバナンス担当者 (監査役会と呼ばれることが多い) との双方向のコミュニケーションは、監査品質を監査するための鍵であり、報告およびサービス提供の重要な側面である。

KPMG AZSAでは、監査期間中に発生した問題についてガバナンス担当者に情報を提供することの重要性と、その意見に耳を傾け理解する必要性を強調しています。これは、報告とプレゼンテーション、監査役会への出席、経営陣および監査役との適切な継続的な協議を通じて実現しています。

我々は、会計方針、会計上の見積り、財務諸表の開示、財務報告システムの設計及び運用における重大な欠陥、監査の過程においてそのような欠陥が我々の注意を引いた場合のコントロール及び未修正の虚偽表示を含む重要な会計実務の適切性の評価のような見識を提供する。

KPMG研究所

KPMGのグローバルIFRSインスティテュートは、多くの企業に影響を与える会計および監査に関する最新情報を提供し、KPMG会員企業および外部の関係者を支援しています。

例えば、KPMG Global提供の[IFRS研究所](https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html) (https://home.kpmg/xx/en/home/services/audit/international-financial-reporting-standards.html) やKPMG AZSAのホームページからも簡単にアクセスできます。

## 前監事と後任監事との間の連絡

当社は、監査役の異動があった場合の前監査役と後任監査役との間の連絡に関する方針および手順を定めています。これらのコミュニケーションは企業レベルで監視される。

## クライアントの機密性、情報セキュリティ、およびデータプライバシー

顧客の機密保持の重要性は、グローバルおよびKPMGのAZSA行動規範、トレーニング、および年次宣誓供述書/確認プロセスを含むさまざまなメカニズムを通じて強調されており、KPMGのすべての専門家はこれを完了する必要があります。

弊社は、関連するIESBAの要件、およびその他の適用可能な法律、基準、規制に従って、業務に関連する監査文書およびその他の記録の保存期間に関する正式な文書保存ポリシーを持っています。

情報セキュリティについては、幅広い分野で明確な方針を定めています。個人情報の取り扱いについては、各国の個人情報保護法に準拠した個人情報保護方針が定められており、当社の全従業員に関連するトレーニングが必要です。

## リスク関連情報

契約パートナーに変更があった場合、不正リスクを含む重要な監査問題が後続の契約パートナーに伝達されるように、リスク評価およびプロセスに関連する情報を管理するためのシステムが導入されています。

# 継続的改善への取り組み

KPMGは、監査の質、一貫性、効率性を継続的に改善することに取り組んでいます。統合された品質モニタリングとコンプライアンスプログラムにより、会員企業は、個々の監査業務とKPMGの品質管理システムの両方について、品質上の欠陥を特定し、根本原因の分析を実施し、是正措置計画を策定、実施し、報告することができる。

KPMGインターナショナルの統合品質・モニタリングプログラムには、品質実績レビュー (QPR) プログラム、リスク・コンプライアンス・プログラム (RCP) 、グローバル・コンプライアンス・レビュー (GCR) プログラムが含まれます。

品質モニタリングとコンプライアンスプログラムはグローバルに管理されており、テストと報告の性質と程度を含め、すべての加盟企業間で一貫したアプローチをとっている。あずさ監査法人は、内部監査と外部監査の結果を比較し、適切な措置を講じます。

## 内部監査・コンプライアンスプログラム

監視プログラムでは、次の両方を評価します。

* 適用される基準、適用される法律および規制、KPMGの国際的なポリシーおよび手順に準拠した業務遂行;
* あずさ監査法人がKPMGの国際的な方針及び手続を遵守し、主要な品質管理方針及び手続の妥当性、妥当性及び効果的な運用を行っていること。

統合的モニタリング・プログラムの結果と教訓は内部で伝達され、プログラムの全体的な結果と教訓が考慮され、地域、地域、世界レベルで適切な行動がとられる。

また、品質管理システムが適切に設計され、効果的に運用されているか、また効果的に運用されているかの評価にも貢献しています。

KPMGインターナショナルが開発・運営する2つの検査プログラムは、監査・助言機能 (QPRおよびRCP) 全体で毎年実施されています。

さらに、すべての会員企業は、少なくとも3年ごとに部門横断的なGCRプログラムの対象となる。

QPR、RCP、GCRへの参加は、KPMGネットワークの継続的なメンバーシップの条件です。

また、当社の品質管理システムに基づき、不正リスクへの対応を監視・監査するため、以下のプロセスを確実に実施しています。

* 顧客および契約の承認と継続;
* 教育・訓練
* 監査プロセス(監督とレビュー、社内外からの情報への対応、協議、EQCのレビュー担当者とパートナーのローテーションなど);
* 前監査人と後任監査人との間の連絡。

**監査品質パフォーマンスレビュー (QPR)**

QPRプログラムでは、エンゲージメントレベルのパフォーマンスを評価し、エンゲージメントの質を向上させる機会を特定します。

各契約リーダーは、少なくとも3年間のサイクルで1回レビューを受けます。契約の選択にはリスクベースのアプローチが用いられる。

KPMG AZSAは、KPMG国際QPR要領に従い、年次QPRプログラムを実施します。

レビューはKPMG AZSAレベルで実施され、地域的および世界的に監視される。

メンバー企業の監査QPRレビューは、メンバー企業から独立した上級の経験豊富な主任レビュー担当者が監督する。

**(レビュー担当者の選択、準備、プロセス)**

査読者の選定には確固とした基準がある。

プロセスを監督するチームやその他のメンバーをレビューするためのトレーニングが提供され、監査監督当局によって特定された懸念事項や、外部のレビュー担当者と同様に厳格である必要性に焦点が当てられている。

**(QPRからの評価)**

エンゲージメントレーティングとメンバー企業の監査業務評価を決定するために一貫した基準が用いられる。レビュー対象として選択された監査契約は、 「満足」 、 「必要なパフォーマンスの向上」 、または 「不満」 と評価されます。

**(報告)**

QPRプログラムから得られた知見は、文書によるコミュニケーションを通じて会員企業の専門家に伝えられる。社内トレーニングツール;パートナー、マネージャ、スタッフによる定期的なミーティングを実施しています。継続的な改善の程度を評価するために、これらの領域は後続の検査プログラムでも強調される。

主監査契約パートナーは、それぞれのクロスボーダー契約について、満足度の低い契約(「パフォーマンスの向上が必要」 または 「不十分」 と定義される)評価を通知されます。

また、QPRにおいて重要な品質問題が指摘された場合には、取引先グループの子会社・関連会社が会員企業の監査を受けていることを、親会社・本社のリード監査契約パートナーに通知する。

**リスク・コンプライアンス・プログラム (RCP)**

KPMG Internationalは、すべての会員企業に適用される品質管理ポリシーとプロセスを開発し、維持します。これらのポリシーとプロセス、およびそれらに関連する手順には、ISQC 1の要件が含まれています。

年次RCPでは、品質管理と手順の文書化からなる堅牢な評価プログラムを実施します。関連コンプライアンス試験;例外、行動計画および結論の報告。

RCPの目的は次のとおりです。

* KPMG AZSA品質管理システムがグローバル品質・リスクマネジメント方針および専門的サービスの提供に関連する主要な法律および規制要件にどの程度準拠しているかを監視、文書化し、評価する;
* KPMG AZSAが、会社およびその従業員が関連する職業上の基準および適用される法律および規制の要件に準拠しているかどうかを評価するための基礎を提供する。

不具合が確認された場合は、適切なアクションプランを策定し、各アクションアイテムの状況を監視する必要があります。

**Global Compliance Review (GCR) プログラム**

各会員企業は、KPMGインターナショナルのGCRチームが会員企業から独立して実施するGCRの対象となります。

レビューを実施するGCRチームは、KPMGメンバー企業とは独立しており、グローバル品質およびリスクマネジメント方針に関する客観的かつ知識を有している。GCRは、選定されたKPMGの国際的な方針と手続きの遵守状況を評価し、メンバー企業間でベストプラクティスを共有する。

GCRは、以下の項目について独立した評価を提供している。

* 品質とリスクマネジメント(トップのトーン)に対するメンバー企業のコミットメント、およびその全体的な構造、ガバナンス、資金調達がどの程度サポートされ、このコミットメントを強化しているか;
* 主要なKPMGの方針と手続きに対する会員企業のコンプライアンス;
* メンバー企業が独自のコンプライアンス・プログラム (RCP) を実行する際の堅牢性。

我々は、全てのGCRの所見に対応するための行動計画を策定し、GCRチームと合意する。行動計画の進捗状況は、GCRの中央チームによって監視されている。その結果は、グローバル品質・リスクマネジメント運営グループ (GQ&RMSG) に報告され、必要に応じてKPMGインターナショナルおよび地域のリーダーシップを適切に発揮し、メンバー企業が迅速に是正措置を講じることができるよう支援します。

**ルートコーズ分析 (RCA)**

KPMG AZSAは、監査品質問題の再発を防止し、継続的改善の一環としての優良事例の特定を支援するために、監査品質問題を特定し対処するRCAを実施します。

RCAを実施し、それによって特定された監査の質の問題に対する適切な是正計画を特定し、その後に策定することは、メンバー企業の責任である。

KPMG AZSAの監査責任者は、ソリューション所有者の特定を含む、RCAの結果としてのアクションプランの策定と実施について責任を負います。リスク管理パートナーは、その実施を監視する。

**改善のための推奨事項**

グローバルレベルでは、GAQSCとGQ&RMSGを通じて、KPMGインターナショナルは品質監視プログラムの結果をレビューし、メンバー企業の根本原因とアクションプランを分析し、必要に応じて追加のグローバルアクションを開発します。

これまで、KPMG Internationalが開発した世界規模の修復計画は、KPMGネットワーク全体の文化と行動を変化させ、KPMGメンバー企業内でのエンゲージメントチームの一貫した成果を推進することを目的としていました。修復計画は、一貫性を促進するためのグローバルなトレーニング、ツール、およびガイダンスの開発を通じて実施されています。また、基本が正しく、ベストプラクティスがKPMGネットワーク全体で共有されていることを確認します。

## 外部からのフィードバックと対話

1. レギュレータ

公認会計士・監査審査会 (CPAAOB) は、JICPAによる品質管理審査を監督し、JICPAの公正性、中立性及び影響力を確認している。

CPAAOBは、JICPAによる品質管理審査報告書を審査・審査するとともに、必要と認められる場合には、JICPA、監査法人等に対して立入検査を行う。

国際レベルでは、KPMGインターナショナルは独立監査規制者国際フォーラム (IFIAR) と定期的に双方向のコミュニケーションを行い、監査の質に関する調査結果と、このような問題にネットワークレベルで対処するために取られた措置について議論しています。

1. お客様からのフィードバック

お客さまからのご意見を積極的に取り入れ、お客さまの満足度を把握しています。

私たちはこのフィードバックを受け、顧客のニーズを満たすために、エンゲージメントレベルと企業レベルの両方でダイナミックな変更を行うよう努めています。